

## 第14章－4 世界恐慌とファシズム

### <世界恐慌 Great Depression>

1929年10月24日 暗黒の木曜日 (Black Thursday)

ニューヨーク ウォール 街の株式取引所で株価大暴落 →世界恐慌へ

#### ◆原因

- ①. 20年代のアメリカは「バブル景気」状態 (=「永遠の繁栄」)  
WWI後、ヨーロッパがアメリカ資金導入で不安克服 (ドーズ案など)
- ②. にもかかわらず、アメリカは高関税政策  
戦債・賠償金支払いもあって国際貿易不均衡。金のアメリカ偏在。  
※ WWI前のイギリスは「資金散布」につとめていた  
国際経済をリードする国は、その安定に配慮する必要がある。
- ③. 大量の余剰農作物をヨーロッパへ輸出  
→やがてヨーロッパ農業の復興で農業恐慌発生

→恐慌発生で、アメリカは資金をヨーロッパ他から引き上げ →世界へ波及

#### ◆影響

- ①. 米・英・仏…… ブロック経済 政策  
広範な植民地・勢力圏を、自国の排他的経済圏に囲い込む
- ②. 独・伊・日……海外市場狭く苦心 → 軍国主義・侵略主義、ファシズムへ
- ③. 植民地・従属地域……宗主国の恐慌のしわ寄せ → 民族解放・独立運動へ
- ④. ソヴィエト連邦……社会主義計画経済のため恐慌の影響なし  
①②からは危険視、③からは期待

### <ファシズム Fascism>

帝国主義時代に入り矛盾を激化させた資本主義社会において、ロシア革命の成功をうけて危機感を強めたところに生じた、反革命のための独裁的政治形態。

国粹主義を掲げ、軍部・資本家・地主の支持を受けるとともに、社会政策を強調して、中間層・農民の間に大衆的基盤を求め、また極めて暴力的に人権を否定する。

ドイツ・イタリアでは、「疑似革命的」な政党が「下から」の大衆運動の形で成長し、支配者階級の救済者として権力を掌握して一党独裁を行った。

他方、日本は「上から」の形でファシズムに移行した。またスペインはその中間の形態。

20～30年代は、ほぼ全ての国でファシズムの動きが見られた。それは後に枢軸国と戦った連合国の国々も例外ではない。(イギリス・ファシスト同盟、アクション・フランセーズ)

#### ※全体主義……個人の自由を否定し、国家・社会の全体性を原理とする政治思想

近代民主主義に対抗して WWI 後に出現した。独裁制、侵略的政策。

民族・国家の非合理的美化。権力による一切の社会活動への暴力的統制。

戦前の独・伊・日などのファシズムのみならず、ソ連や戦後の共産主義諸国の体制も含み得るものとして理解される。

## 《アメリカ》

共和党フーヴァー大統領……恐慌対策は「フーヴァー・モラトリアム」のみ  
→ 1932 年選挙でフーヴァー落選

### ◎ フランクリン・ローズヴェルト (第 32 代、民主党、1933-45. <sup>4</sup>/<sub>12</sub> 死去、史上唯一 4 選)

1933 ニュー・ディール 政策 (New Deal、新規まき直し)

- ・ 全国産業復興法 (NIRA) National Industrial Recovery Act  
生産制限、労働者の団結権・団体交渉権
- ・ 農業調整法 (AAA) Agricultural Adjustment Act  
農作物の作付け制限
- ・ テネシー川流域開発公社 (TVA) Tennessee Valley Authority  
大規模公共事業による失業者吸収

↑  
※ ケインズ (英、経済学者) ……修正資本主義の理論確立  
政府の有効需要開発による完全雇用実現を主張

ところが、連邦最高裁判所が違憲立法の判決 ('35 NIRA、'36 AAA)

⇔ ローズヴェルトは「分割立法」で対抗、政策推進

1935 ワグナー法 ……労働者の団結権・団体交渉権保障 → 労働運動さかんに

1938 産業別組織会議 (CIO) Congress of Industrial Organization  
未熟練労働者も組織、政治活動も積極的 → 民主党支持

▶ 外交…… 善隣外交 (Good Neighbor Policy)

1933 第 7 回汎米会議の席上、国務長官ハルが表明

・ キューバに対するプラット条項廃止など、内政干渉控える。

・ ラテンアメリカ諸国との間の関税引き下げ (ドル・ブロック)

1933 ソ連 承認……列強中最後 (←日・独の国際連盟脱退)

## 《イギリス》

▶ 第 2 次 マクドナルド 内閣 (1929.5 ~、労働党、議会第 1 党に)

'31.7 恐慌対策として失業手当の大幅削減策

これに与党労働党が反対、党首マクドナルドを除名

▶ マクドナルド 挙国一致 内閣 (31.8 ~ 35) ……保守党・自由党の連立

31.10 総選挙で挙国一致派圧勝、労働党惨敗

1931.9 金本位制離脱

1932.7 オタワ連邦会議 ……ブロック経済政策、スターリング・ブロック 結成  
イギリス連邦内の関税引き下げ、連邦外には高関税

▶ 1935 ~ 保守党中心の挙国一致内閣続く

ナチス・ドイツ成立をにらみ軍備拡張。→ 経済活況へ

一方、ナチスに反ソ的態度を期待して 宥和政策

ファシズム勢力が反共産主義を唱えているうちはこれと妥協

## 《フランス》

1932年から恐慌 ⇔ 植民地・友好国との間に フラン・ブロック 結成

1933年 金融疑獄事件で政府財界の腐敗が暴露される。

⇔ 極右団体アクション・フランセーズが、民衆の不満を利用し政府攻撃  
(改革者を装いつつ勢力拡大=ナチスと同じやり方)

1934年 急進社会党ショータン内閣 (右派連立) 崩壊

→ 2月 ドゥーメルク内閣 (半ファシズム的) 成立



共産党指導の反ファシズム全国ゼネスト決行

議会内でも左派政党が連立して派閥形成

↓ 1935年5月 仏ソ相互援助条約 調印 (対ナチス)

1935年.11 フランス 人民戦線 結成 (←'35.7 コミンテルン「人民戦線テーゼ」)

1936年.4 総選挙……人民戦線勝利 (キュリー夫妻、ロマン・ロランなども応援)

.6 人民戦線内閣成立……社会党 ブルム 首相

社会党、急進社会党連立。共産党は閣外協力。

ファシズム団体解散命令、週 40 時間労働 etc

⇔ 大資本の反発で '37.6 退陣 → 38.11 人民戦線崩壊 (社会・共産絶縁)

急進社会党 ダラディエ 内閣 (1938.4 ~ 40.3) ……対独宥和政策 (ミュンヘン会談)

→ 政局不安定のまま 1940.6 ドイツに占領される。

## 《ドイツ》

恐慌 → ナチス (右)、共産党 (左) とともに勢力拡大

共産党と社会民主党の対立 → ナチスに政権を奪われる原因

(↑ 1928 コミンテルン第6回大会……資本主義の延命に助力する修正主義打倒)

◆ナチス = 国家社会主義ドイツ労働者党 (NSDAP, Nazis)

Nationalsozialistische Deutsche Arbeiterpartei

1919 ドイツ労働者党結成 (於ミュンヘン) → 1920 NSDAP に改称

1921 ヒトラー (1889-1945、Adolf Hitler)、党首に就任

オーストリア出身 (ドイツ帰化は 1932 年)。ウィーン美術アカデミー受験不合格。

WWI ではバイエルン王国軍伝令兵、階級は伍長 (兵長) どまり。

1923 ミュンヘン一揆失敗 → ヒトラー投獄 (獄中で『わが闘争』執筆)

▶ 主張 {

- ・ドイツ民族の優秀性、ユダヤ人排斥
- ・独塊合邦 (アンシュルス)、ドイツ民族の民族自決
- ・英仏支配のヴェルサイユ体制打破
- ・戦時利得没収・トラストの国有化など、一見社会主義的政策も

ミュンヘン一揆失敗後は、合法的大衆活動に訴える方針へ転換

しかしユダヤ人・社会主義者などへの暴力行為は継続

- 1930.3  
.4 失業保険問題で内閣崩壊……社民党は負担金引上、人民党は給付金引下を主張  
大統領 ヒンデンブルク は、中央党 ブリューニング を首相に指名  
※大統領内閣……29年頃から大統領非常大権に依存した内閣が続く
- .9 総選挙……ナチス第2党 ①社民 143、②ナチス 107、③共産 77、…計 577
- 1932.4  
.6 大統領選挙……ヒンデンブルクがヒトラーを破り再選  
大統領、パーペン（中央党除名）を首相に指名し議会解散  
ローザンヌ賠償協定……国民の不満
- .7 総選挙……ナチス第1党 ①ナチス 230、②社民 133、③共産 89、…計 608  
大統領はパーペン内閣承認、ヒトラーに入閣要請 →ヒトラー拒否 →議会解散
- .11 再び総選挙……ナチス第1党 ①ナチス 196、②社民 121、③共産 100、…計 584  
大統領は、軍の シュライヒャー（前国防相）を首相に指名  
しかし、共産党も躍進したため、大資本がナチス支持へ

### 1933年1月30日 ヒトラー首相指名……ナチス、<sup>てつかぶと</sup>国家人民党、鉄 兜 団の連立内閣

- 2/1 過半数を制するため議会解散
- 2/27 **国会議事堂放火事件** ……オランダ共産党員ルッベの単独犯行  
ヒトラーはこれを共産党の陰謀とし、同党への投票無効を宣言。
- 3/5 総選挙……ナチス得票率 43.9 %  
①ナチス 288、②社民 120、③中央党 92、④共産 81、⑤国家人民党 53…、計 647
- 3/23 全権委任法（授權法）可決……4年間の政府独裁権を認める  
↓ ナチス・国家人民党・中央党 444 vs 94(社民)
- 5/2 労働組合解散
- 5/10 ユダヤ的・反ナチスの書物を「焚書」（ハイネ、フロイト、マルクスなど）
- 6/22 社会民主党禁止、7/14 ナチ以外の政党禁止
- 10/21 国際連盟 脱退
- 1934年.8/2 ヒンデンブルク大統領死去 → ヒトラー、総統（Führer）就任

#### ◆経済

- ・「四カ年計画」。軍需産業に失業者吸収。
- ・大規模公共事業……アウトバーン（Autobahn、自動車専用道路）建設など

#### ◆ナチスの要人・組織

- ・**突撃隊**（SA）……街頭での暴力活動部隊 →国軍と対立した指導者レームを'34 粛清
  - ・**親衛隊**（SS）……ヒトラーの護衛部隊（長身美男、格好いい制服）
  - ・ゲシュタポ（Gefheim Staatspolizei、秘密国家警察）
  - ・強制収容所……ユダヤ人、ロマ（ジプシー）、政治犯を収容  
……ダッハウ、ブーヘンヴァルト、アウシュヴィッツ（ポーランド領）など
- ▶ ヨーゼフ・ゲッベルス（1897-1945 自殺）……宣伝大臣（対内外プロパガンダ、大衆操作元締め）
- ▶ ヘルマン・ゲーリング（1893-1946 死刑判決後自殺）……空軍元帥、プロイセン内相（ゲシュタポ創設者）
- ▶ ハインリヒ・ヒムラー（1900-45 自殺）……SS 隊長。ゲシュタポ指揮権握り強制収容所運営

## 第14章－5 第二次世界大戦

### 1. ファシズム諸国陣営の形成

<ドイツ>

- 1933.** 1 ヒトラー首相 (→ 34.8 総統)  
. 10 国際連盟脱退 (← 33.3 日本脱退)  
(→ 34.9 ソ連が国際連盟に加盟、常任理事国に)
- 1935.** 1 ザール地方における人民投票 (ヴェルサイユ条約の規定による)  
同地方がドイツに帰属することが決定  
. 3 再軍備宣言、徴兵制の復活  
↓  
. 4 ストレーズ戦線……英・仏・伊 (ムッソニーニも初めはナチス警戒)、  
協力してドイツに対抗。しかし利害一致せず崩壊
- <仏> . 5 仏ソ相互援助条約……仏・ソ連・チェコの3国でドイツに備える  
↓
- <英> . 6 英独海軍協定……ドイツに対英35%の海軍力保持を承認  
※ 宥和政策……ナチスが反共産主義を唱えている間はこれと妥協
- <ソ> . 7 コミンテルン第7回大会……“人民戦線テーゼ”採択  
「広く民主主義勢力とも協力して反ファシズム戦線を！」  
“味方でない者は敵”ではなく“敵でない者は味方”へ転換  
→フランス、スペイン、中国へ
- <伊> . 10 エチオピア 侵略開始 (36.5 併合) →ドイツと接近  
国際連盟の経済制裁決議も効果無し

<ドイツ>

- 1936.** 3 ロカルノ条約破棄、ラインラント進駐  
→ 仏は硬化、しかし英は宥和政策で黙認
- . 7 スペイン内乱勃発 (→後述)
- . 10 ベルリン・ローマ枢軸 (The Axis) 結成  
国際的に孤立した独伊両国が利害一致  
伊のエチオピア併合、独のオーストリア進出を互いに承認  
スペインのフランコ支持を約束
- . 11 日独防共協定  
↓
- 1937.** 11 日独伊三国防共協定……ファシズム3国の結合  
. 12 イタリア、国際連盟脱退

## 《スペイン内乱》

WWI 中立で利益 → 戦後不況

1923-30 プリモ・デ・リベラの軍事独裁 → 世界恐慌で退陣

1931 スペイン革命・・・ブルボン朝倒され共和政へ

1936. 2 人民戦線内閣成立

⇕

. 7 フランコ 将軍(1892-1975) 率いる軍部・右翼がモロッコで反乱

独伊・・・公然とフランコ支持

ドイツは新兵器の実験場とする → 1937.4 ゲルニカ 空爆

ソ連・・・人民戦線政府支持

英仏・・・内政不干涉

⇔ 国際義勇軍・・・世界各地から反ファシズムの人々が政府側に参戦

米作家 ヘミングウェイ (「誰がために鐘は鳴る」)

仏作家アンドレ・マルロー (のちドゴール政権の文化相)

英作家ジョージ・オーウェル (「カタロニア賛歌」「1984年」)

1939. 3 フランコ、マドリード占領

. 8 フランコ、国家主席 (~ 1975 死) ← 米英仏の承認

防共協定参加・国際連盟脱退

しかし WW II で中立、戦後もファシズム政権として存続

## 《ドイツの対外侵略》

1938. 3/12 オーストリア 併合・・・ゲルマン民族の民族自決を理由に強硬

さらにチェコ領内のドイツ人居住地 ズデーテン 地方の併合も要求

→チェコは英・仏に頼る

.9/29-30 ミュンヘン 会談

英 ネヴィル・チェンバレン、仏 ダラディエ、独ヒトラー、伊ムッソリーニ  
ヒトラーのズデーテン地方併合要求承認

※英仏の宥和政策の頂点

欧州諸国・・・英仏への不信感。むしろドイツとの妥協が得策と考える

ex.ハンガリーのホルティ政権はチェコ解体に参加

ソ連・・・英仏がドイツの攻撃をソ連に向けようとしている、と解釈

1939. 3 チェコスロヴァキア 解体

ドイツはチェコ (ベーメン) を併合、スロヴァキアを保護国化

. 3 リトアニアの メーメル 地方 (ドイツ人居住地) を併合

<伊> . 4 アルバニア を併合 (← 26 保護国化)

. 5 独伊軍事同盟 (鋼鉄同盟)

- <英仏> …… 宥和政策捨て、独の次の目標ポーランドを支援へ
- <ソ連> …… 英・仏と同盟の交渉、しかし両国は不熱心  
日本との満州国境紛争に兵力必要…1939.5-9 ノモンハン 事件



- 1939. 8/23 独ソ不可侵条約 締結  
独は英仏に、ソ連は日本に専念  
ポーランド分割、バルト3国のソ連への併合を密約
- . 8/25 英・ポーランド、仏・ポーランド相互援助条約
- . 8/28 日本、平沼騏一郎内閣総辞職（「欧州情勢は複雑怪奇…」）  
→ノモンハンで大敗。以後、ソ連と事を構えず。

## 2. 第二次世界大戦 ( World War II )

- 1939. 9/1 ドイツ、ポーランド 侵入（電撃戦）。ダンツィヒ 併合宣言。
- . 9/3 英仏、ドイツに宣戦
- . 9/17 ソ連、ポーランド侵入 9/23 独ソ、ポーランド分割占領
- . 9/27 ワルシャワ陥落、ポーランド降伏。

WW II 初期…英仏 vs 独ソ (伊、西、米は中立)

※まやかし戦争（いかさま戦争、Phoney War）  
緒戦でドイツが北・東欧で戦っているうちは、英仏も対独攻撃をせず。  
奇妙な戦争（Drôle de guerre：仏）、座り込み戦争（Sitzkrieg：独）とも言う。

- <ソ> . 9 バルト3国占領 (→40.8 併合)
- . 11 フィンランド 攻撃 (→40.3 圧勝し講和)  
※フィンランドは独ソ戦開始でドイツ側につきソ連を攻撃、結果的に枢軸国となる。
- . 12 国際連盟を除名される
- 1940. 4 ルーマニアからベッサラビアを奪う

### <ドイツ>

- 1940. 4 デンマーク・ノルウェー両中立国占領
- . 5 マジノ線突破、オランダ・ベルギー占領。
- . 6/10 <伊> ムッソリーニ、ドイツ有利とみて対英仏宣戦
- . 6/14 パリ 陥落。ドイツ、フランス北半分占領



- <仏> . 7/1 南半に ヴィシー 政府成立、首班 ペタン ……ドイツの傀儡政権  
⇔ ド・ゴール 将軍、ロンドンに自由フランス政府樹立  
国内でも “レジスタンス” 運動（対独抵抗運動）

- <独> . 7 イギリス空襲開始
- <英> チャーチル 戦時連立内閣（'40.5-'45.7）……空襲に耐え、独軍上陸阻む
- . 9 日独伊三国軍事同盟 締結……枢軸陣営強化
- . 11 ルーマニア、ハンガリー、スロヴァキア枢軸陣営参加（'41.3 ブルガリアも）

## 《独ソ戦》

1941. 3 ユーゴ、枢軸陣営参加後、反独クーデタで脱退（反独親ソ政権成立）  
. 4 ドイツ、ユーゴ占領。（※ナチス支配下でクロアチア人によるセルビア人抑圧）  
⇔ ティトー、パルチザン活動を指揮して抵抗  
さらにギリシアを占領、バルカン半島制圧



- <ソ連> ドイツを警戒・・・4/13 日ソ中立条約 締結・・・背後の安全確保  
. 6/22 独ソ戦 開始・・・ドイツ、独ソ不可侵条約破棄しソ連侵攻

1942. 8 スターリングラード 包囲



- . 11 ソ連軍、同市を逆包囲 →'43.2 同市のドイツ軍壊滅（冬装備無しだった）  
以後、ドイツ劣勢に

## 《アメリカの役割の重要化》

はじめ中立 → フランス敗北をうけ徴兵制実施

1941. 3 武器貸与法・・・英、ソ連など反ファシズム諸国を援助  
. 8 大西洋憲章（Atlantic Charter）  
ローズヴェルト、チャーチルの大西洋上での会談  
大戦に対する態度と、戦後の平和原則 →国際連合憲章へ  
. 8-9 英・ソ連両国によるイラン進駐  
→米英からの軍事物資をイラン縦貫鉄道でソ連へ運ぶ



- <ソ連> 1943.5 コミンテルン 解散・・・対米英協調へ

## 《太平洋戦争》

<日本> 日中戦争勃発で日米通商航海条約破棄 →石油供給が停止され苦境に

1940. 9 北部仏印進駐（← 40.6 フランス敗北）・・・「援蒋ルート」遮断を図る  
. " 日独伊三国軍事同盟

1941. 4 日ソ中立条約・・・背後の安全確保し対米交渉  
. 7 南部仏印進駐 ⇔ 「ABCD 包囲陣」（米英中蘭の対日封鎖、日本側の呼称）  
. 11/26 米国務長官ハル、日本へ「ハル・ノート」提示 →交渉決裂

12月8日 AM3:19（日本時間） 真珠湾攻撃 → 太平洋戦争 始まる

現地 7日 AM7:49 ハワイの米海軍基地を“奇襲”

これより前、AM1:30 英領マレー半島上陸

その後、対米英宣戦布告

⇔ アメリカ、対日独伊宣戦布告

日本は開戦後半年で東南アジア全域を占領するが...

1942. 6/5 ミッドウェー海戦・・・日本海軍機動部隊主力壊滅  
. 8 ガダルカナル島攻防戦・・・1943.2 撤退 →日本軍「転進（=後退）」へ

## 《第二戦線とイタリア降伏》

ソ連……独ソ開戦以来、米英に対して「**第二戦線**」(＝西部戦線での対独反攻)を要求  
⇨米英の足並み揃わず。米ローズヴェルトは積極的だが、英チャーチルは消極的

- 1942. 11 連合国、フランス領アルジェリア上陸……米英妥協で第二戦線形成
- 1943. 1 カサブランカ会談……ローズヴェルト、チャーチル。シチリア・南伊侵攻確認
  - . 7/10 連合国、シチリア上陸。→党内でもムッソリーニ批判高まる
  - . 7/25 国王、ムッソリーニ解任、逮捕投獄。7/28 ファシスタ党解散。
  - . 9/8 イタリア無条件降伏(パドリオ政権)

## 《連合国の連携》

- 1943. 11/22-26 カイロ 会談……ローズヴェルト、チャーチル、蒋介石  
カイロ宣言(対日処理)……1914年以降獲得した太平洋の諸島を放棄、  
満州・台湾の中国への返還、朝鮮独立
- . 11/28-12/1 テヘラン 会談……ローズヴェルト、チャーチル、スターリン  
本格的第二戦線を'44.5 実行約束
- 1944. 6/6 ノルマンディ 上陸作戦成功  
米 アイゼンハウアー 司令官指揮下、米・英・自由フランス軍
  - . 8/20 パリ解放
  - . 9/9 フランス共和国臨時政府成立、首班 ド・ゴール
- 1945. 2/4-11 ヤルタ 会談……ローズヴェルト、チャーチル、スターリン  
対独処理方針。および極東密約(ヤルタ協定、対日)。  
ソ連は千島列島・南樺太を得ることと引き替えにドイツ降伏後3ヶ月で対日参戦約束
  - . 4/30 ヒトラー自殺 (3月米軍ライン渡河、4月ソ連軍ウィーン占領)
- 5月8日 ドイツ降伏(デーニッツ政権)
  - 7/16 米、原爆実験成功
- . 7/17-8/2 ポツダム 会談
  - 米：トルーマン (4/12 ローズヴェルト死去、副大統領から昇格)
  - 英：チャーチル、のち アトリー (7/27～労働党内閣)
  - ソ：スターリン
- . 7/26 ポツダム宣言……日本に対する無条件降伏勧告(英チャーチルの任期中)  
蒋介石の承認のもと米英中3国で(ソ連は対日参戦後参加)  
カイロ宣言実施などの連合国の方針述べる
- . 8/2 ポツダム協定……対ドイツ処理。非ナチ化、連合国による分割管理

## <日本敗戦>

- . 4/1 米軍、沖縄本島上陸(～6/23 沖縄での組織的地上戦終結)
- . 8/6 広島に原爆投下、8/9 長崎に原爆投下
- . 8/8 ソ連軍、対日参戦通告。8/9～満州制圧、関東軍壊滅
- 8月15日 終戦の詔勅発表(←8/14、ポツダム宣言受諾を連合国に通告)
- . 9/2 東京湾、戦艦ミズーリ号上で降伏調印(←8/30 マッカーサー、厚木到着)